

川崎医科大学附属病院 がんセンターNEWS

Vol.4 2010 夏号



- 放射線科(治療)のご紹介
- 第7回 Cancer seminarレポート
- 学会ニュース
- 緩和ケアフォーラムin岡山

インフォメーション

- がんセンター活動予定
- オープンカンファレンスのご案内



● 放射線科(治療)のご紹介

放射線科(治療) 部長 平塚 純一

放射線治療は手術療法、薬物療法とともにがん治療の柱となる治療法であり、近年その患者数は全国的に増加しています。お陰様で当科でも年間約600名の患者さんを御紹介いただき、私を含め4名の教室員(＋非常勤医師1名)と5名の放射線技師、1名の看護師が診療にあたっています。限られたスタッフでなんと



か診療が行えているのも、院内の多くの診療科ならびに地域の先生方の御理解・御協力があったからこそと感謝しております。

当科では定位放射線治療、強度変調放射線治療(IMRT)、小線源治療といった大学病院ならではの高精度な治療を提供する一方で、緩和的な治療も積極的に行っています。早期がんから進行がんまで様々な病状のがん患者さんに対し、優しく治すこと、あきらめず一緒に治療に取り組むことを心がけています。「放射線科に相談したら何か良い方法があるかも知れない」そんな期待に応えられるような診療科でありたいと願っています。

放射線治療は日進月歩です。われわれ自身いっそうの研鑽を積み、がん拠点病院としての責務を全うし、地域医療に貢献するべく全力を尽くしたいと考えております。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

● 第7回 Cancer Seminar レポート

消化器外科 平井 敏弘

6月27日(日)午後1時30分より川崎医科大学現代医学教育博物館において、川崎医科大学附属病院がんセンターおよび中国・四国広域がんプロ養成プログラム インテンシブ生涯教育コース共催による第7回 Cancer Seminar が開催された。テーマは「地域連携」で4名の講演が行われた。医療崩壊ともいわれる医療状況のなかで、がん患者をがん難民にしないために医療者ができることは、一つはチーム医療であり、また一つは地域連携であると思われこのテーマが選ばれた。このことはがん医療に限らずすべての疾患に共通しており、Cancer Seminar ではあるもののがん医療の枠をこえて医療全体の地域連携に関する興味深い講演が行われた。演者と講演題目は以下の通りである。講演1.PEGを含めた栄養地域連携に対する津山中央病院の取り組み。平良明彦先生(津山中央病院内科部長)。講演2.中山間地域の地域包括ケアと在宅緩和ケア。菅原英次先生(高梁市川上診療所所長)。講演3.在宅緩和

和ケアにおける診診連携の実際と病診連携について。守屋 修先生(守屋おさむクリニック)。講演4.岡山県におけるがん診療地域連携バスの動向。中田昌男先生(川崎医科大学呼吸器外科教授)。

参加者は109名で香川県、広島県からも来ていただいた。また医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、栄養士など他職種の方々が参加され、地域連携に対する関心の高さや医療者の熱意がうかがえた。



● 学会ニュース

第二世代チロシンキナーゼ阻害薬、ニロチニブの登場

血液内科 杉原 尚

チロシンキナーゼ阻害薬であるイマチニブは慢性骨髄性白血病患者(CML)の予後を大きく変えた。7年時点での全生存率は94%と、平均3.5年で必ず急性転化し、死の転帰をとっていたCMLがいまや慢性疾患となった。第二世代のニロチニブの登場はさらにその予後を改善し、第一選択薬となりつつある。ENESTnd試験の18カ月時点の結果、慢性期から移行期、急性転化期への進行は、イマチニブ群が3.5%、ニロチニブ300mg群は0.7%、400mg群が0.4%($p=0.0037$)と、明らかにイマチニブを上回っている。
ASCO 2010 J Clin Oncol 28:7s, 2010 (suppl; abstr 6501)

臨床応用がすすむ超音波気管支鏡ガイド下針生検(EBUS-TBNA)

呼吸器外科 清水 克彦・中田 昌男

超音波気管支鏡(EBUS)を用いて行う肺門・縦隔リンパ節の針生検(TBNA)は、これまで全身麻酔を必要としたこれらの病理診断を通常の気管支鏡下に行うことができるため侵襲が少なく、その診断率もきわめて高いことが呼吸器内視鏡学会で発表されました。肺がんの転移診断のみならず悪性胸膜中皮腫・悪性リンパ腫の診断にも応用することができます。当院でも7月より導入し威力を発揮しています。(第33回日本呼吸器内視鏡学会より)

第46回米国臨床腫瘍学会(ASCO)

消化器外科 平井 敏弘

AVAGAST: 進行胃癌患者のファーストライン治療としてカペシタビン+シスプラチンにペバシスマブまたはプラセボを投与するランダム化二重盲検第III相試験

Kan YK et al.(Korea) ASCO #4007

昨年のASCOではHER2強陽性患者の進行胃癌患者において、トラスツズマブ(ハーセプチンTM)を加えた群で有意に生存期間が延長したことが報告され話題になった(ToGA study)。しかし、HER2強陽性群は約2割である。それ以外の症例にペバシスマブ(人型抗VEGF抗体:アバスチンTM)が有効か否かが注目された試験である。結果は、全生存期間ではペバシスマブの併用効果はなく(プラセボ群とペバシスマブ併用群で生存期間中央値10.1カ月vs.12.1カ月、HR:0.87、 $p=0.1002$)、無再発生存期間で有意差を認めた(5.3カ月vs.6.7カ月、HR:0.87、 $p=0.0037$)。しかし、主要評価項目の全生存期間に延長効果はなく、ネガティブデータと言わざるを得ない。

食道癌に対する術前化学放射線療法は、手術単独に比し良好な予後を示した

Gaast VD et al.(Metherland) ASCO#4004

日本ではJCOG9907により、術前化学療法(CDDP+5FU)が手術単独に比し有意に予後良好であったことから、術前化学療法がスタンダードとなった。しかし、サブ解析ではstage IIでは有意差はあるもののstage IIIでは有意差がなく、より進行癌で予後を改善するパワーは小さいと考えられている。本試験は、術前に化学療法(パクリタキセル+カルボプラチン)に放射線療法を加えた化学放射線療法と手術単独を比較した第III相試験である。3年生存率で化学放射線療法群と手術単独群はそれぞれ59% vs. 48%で有意に化学放射線療法が良好であることが示された。他の同様な試験では、化学放射線療法により術後合併症が増加する報告が多かったが、本試験では術後合併症率は同様であった。

● 緩和ケアフォーラムin岡山

岡山南西地区およびその周辺地区における緩和ケアの強化・充実、在宅ケアの活性化に向けた情報交換、切れ目のない連携バスの完成と実践を目的にした研究会です。年4回の勉強会・講演会を開催、メーリングリストでの情報交換を行っております。研究会に参加ご希望の際は下記までご連絡をお願いいたします。

緩和ケアフォーラムin岡山

代表世話人 川崎医科大学附属病院
消化器外科部長 平井 敏弘
事務局 川崎医科大学 臨床腫瘍学教室
kasco@med.kawasaki-m.ac.jp
メーリングリストご加入の際は上記にメールをお願いします。

がんセンター活動予定

第4回 Oncology Seminar (看護師・メディカル向け)

日時:平成22年9月11日(土) 13:30~16:00
場所:川崎医科大学 7階 M702教室

プログラム

テーマ1 「がんの診断学」

- ①「病理診断」 高股 直樹 (病棟病理部 副部長)
- ②「画像診断」 伊東 克能 (放射線科(画像診断)部長)

テーマ2 「がんのインフォームド・コンセント」

「ICを支える看護師として
知っておいて欲しいこと」 中田 昌男 (呼吸器外科 部長)

第7回 市民公開講座

要事前申込

「がんを生きる -川崎医科大学附属病院がんサロン-」

日時:平成22年10月2日(土) 13:30~16:00
場所:川崎医科大学 8階ラウンジ

講演 13:30~15:00

- 1.「がんと上手につきあおう」 山口 佳之 (臨床腫瘍科 部長)
- 2.「がんとともに生きて」 乳がん体験者さま
- 3.「がん相談支援センターの活動紹介」 中倉 智恵美 (患者診療支援センター 医療ソーシャルワーカー)
- 4.「心を癒すアロマセラピー」 横山 和代 (AEAJ認定アロマセラピーアドバイザー・患者診療支援センター)

懇親会 15:00~16:00

茶道部学生によるお抹茶コーナー
ハーブティーコーナー
アロマセラピーコーナー

● オープンカンファレンスのご案内

下記のカンファレンスを行っています。参加ご希望の際は地域医療連携室までご連絡をお願いします。

呼吸器カンファレンス

呼吸器内科・呼吸器外科・放射線科(診断・核医学)合同で「呼吸器X線カンファレンス」を行っています。院外の先生方もどうぞご参加ください。気になる症例がありましたらレントゲンをお持ちいただいても結構です。

日時 第2・4月曜日 18:00~19:00 場所 9階中病棟 第2カンファレンス室

大腸癌化学療法カンファレンス

外科・内科・臨床腫瘍科・放射線科の医師・看護師・薬剤師など多職種からなる医療チームで、外来大腸癌性腫瘍に対する治療方針(化学・放射線療法プロトコル・手術介入など)の決定についてのカンファレンスを行います。院外の先生方や医療スタッフの皆さまもどうぞご参加ください。

日時 第1・3金曜日 17:30~19:00 場所 本館10階 通院治療センター

Nutrition Support Team(NST)カンファレンス

毎週火曜日12:45から14階南カンファレンス室でNSTミーティングと勉強会を約1時間行っています。どなたでも参加可能です。



川崎医科大学附属病院

〒701-0192 岡山県倉敷市松島577
TEL 086-462-1111(代表)
<http://www.kawasaki-m.ac.jp/hospital/>

紹介患者さま受診予約窓口

■地域医療連携室
TEL (086) 462-1111 (内線22611)
FAX (086) 464-1166
E-mail renkel@med.kawasaki-m.ac.jp